

2月22日、長野市内でおこなわれた「第3回秘密法やだねデモ」(主催・秘密保護法やだネット長野)への学生・Aさんのメッセージです。

こんにちは。私の出身は福島県です。被災者としてみなさんに聞いてほしいことがあります。私は高校2年の時に原発事故で被災しました。今日は、フクシマで被災した話とともに、秘密保護法反対を訴えます

家族ひとりひとりが異なる土地で避難生活を送っている

実家は第一原発から15キロ、第二原発から5キロの檜葉町にあります。現在檜葉町は、避難指示解除準備区域となっていて、自由に行き来できるようになりましたが、まだ住むことはできません。我が家は、震災によって別々に暮らすことになった、世帯分離した家族です。今現在も、ひとりひとりが異なる土地で避難生活を送っています。

町に帰れるのか、帰れないのか、一緒に暮らせるのか、暮らせないのか、私たち被災者は悶々とした日々を3年間も送っています。一時帰宅して、朽ち果てていく自分の家を見るたびに、「もうこの家には住めないな」と絶望感を感じます。でも、生まれ育った町の景色は皮肉なくらいにそのまま、美しい川や森、空や空気は、フクシマを離れた今でもどうしても忘れることができません。そのたびに、「もしかしらたら帰れるかもしれない」と、叶うかどうかもわからない期待を抱き、結局フクシマを捨てきれずにいます。

今になって強く感じる放射能への不安

檜葉からいわき市の小学校へ避難して2日目の2011年3月14日、私と母は衣類を買いに、避難所から40分ほど歩いて買い物へ行きました。その帰り、のどが渴いたので、近くのコンビニへ寄ってアイスを買ひ、駐車場で2人で食べていました。第一原発3号機が爆発したのはそのときでした。コンビニの定員さんが店のシャッターを閉めはじめたので、「どうしたのですか」と聞くと、「原発がまた爆発したんだよ、早く帰ったほうがいいよ」と言ったのです。

急いで避難所へ戻りましたが、それまでにどのくらいの量の息を吸っただろうと考えると、怖くてたまりませんでした。

震災から一か月もたたない4月上旬、檜葉町が警戒区域になる前立ち入り禁止になる前に、私は一時帰宅しました。高校の制服や教科書などを取りに戻りました。震災から一年間は、私は福島県いわき市で一人で暮らしました。そのときは水道水やスーパーの野菜な

ど、放射能のことは特に気にせず食べました。でも今になって、これから癌になったらどうしようとか、将来自分の子どもは元気に生まれるだろうか、と思うようになりました。

ただでさえ原発の情報は隠されている

政府が無理やり制定した秘密保護法は、原発からどのくらいの放射能が、どの方向へ、どの地域に漏れているかという情報を隠すことができます。原発がどうなっているのか、私たちは知ることができなくなってしまう。さらに原発の情報を調べようとするとだけで、私たちは逮捕される可能性があります。また「原発はもういらない」と、このような集会で声を上げるだけでテロリスト扱いされてしまうのです。

ただでさえ原発の情報は隠されています。福島第一原発一号機は、2011年3月11日の地震発生から16時間までにメルトダウンを起こしていました。この事実を東電が明らかにしたのは2か月も経過してからでした。また、原子力災害時に搬す放射性物質の拡散状況を予測する「SPEDI」のデータを、政府は福島県民はじめ、国民にはすぐには公表しませんでした。それを知らされずに線量の高い地域に避難し、避けられたはずの被ばくをした被災者もいるのです。

私は、安全なところに安心して暮らしたいです。私は自分のふるさとや福島原発が、どうなっているのか知りたいです。新潟の柏崎刈羽原発や静岡の浜岡原発や安全なのか、どのくらい放射能が漏れているか知りたいです。ここ長野に住み続けても大丈夫かどうか知りたいです。



自分の命にかかわる情報を手に入れたいと思うことはおかしいでしょうか。私たちの命を脅かす原発はもういらないと、声を上げるのはいけないことですか。

ふるさとを追われ、健康を脅かされ、声を上げたら患者扱いですか？

私たち被災者は、原発事故でふるさとを追われ、健康を脅かされました。精神的な苦痛は計り知れません。「お墓に避難します」と言って、自ら命を落とした人までいるのです。いまでも、多くの人が避難生活に不満を抱えて生活しています。

しかし、政府は原発の再稼働や海外輸出に躍起になっています。エネルギー基本計画では、「原発は重要電源だと、これからも原発を維持していく方針を示しました。そして次は何だと思ったら、この秘密保護法です。原発事故の被災者になり、原発反対だと訴えたら患者扱いにされる、こんなひどい話がどこにありますか。

私は秘密保護法に強く反対します。安倍政権を許せません。今の政府は、すでに国民の声を無視して、民主主義のかけらもありません。秘密保護法が施行されたら、この日本は崩壊すると思います。いま、みんなで声を上げて秘密保護法を撤廃させましょう。

学問の自由も脅かす秘密保護法は廃止を！

そして今日はもう一つ、伝えたいことがあります。私は自分と同じような年代のみなさんと一緒に、日本の社会や政治、経済について考えたいです。若い世代の人たちが社会の出来事に目を向けるのは、とても大切なことだと思います。自分が暮らす社会ではいま、何が起きているのか、自分はどんな社会に暮らしたいのか、そして、理想の社会にするために何ができるか、そういうことを私たちがもつと積極的に考えて、行動していくべきだと思います。

今回の秘密保護法は、学生にも影響を及ぼします。政府に都合の悪い内容であれば、歴史の資料だつて見られなくなり、科学の実験さえできなくなることもありえます。好きなことを勉強したい、研究したいという学問の自由が奪われてしまうのです。

私は、安全な社会に安心して暮らしたいです。大学では好きなことを自由に学びたいです。今の安倍政権のもとでは、そういう普通の生活ができなくなっています。その原因のひとつが、この秘密保護法だと思います。私は秘密保護法反対を訴えます。みんなで一緒に声を上げていきましょう。